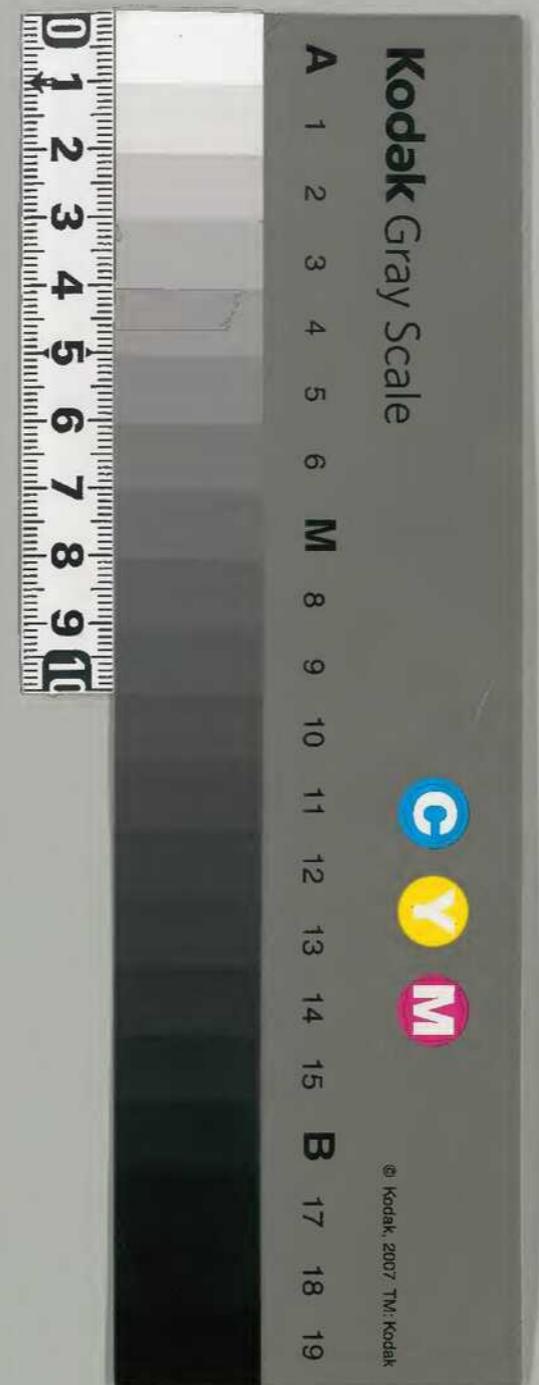
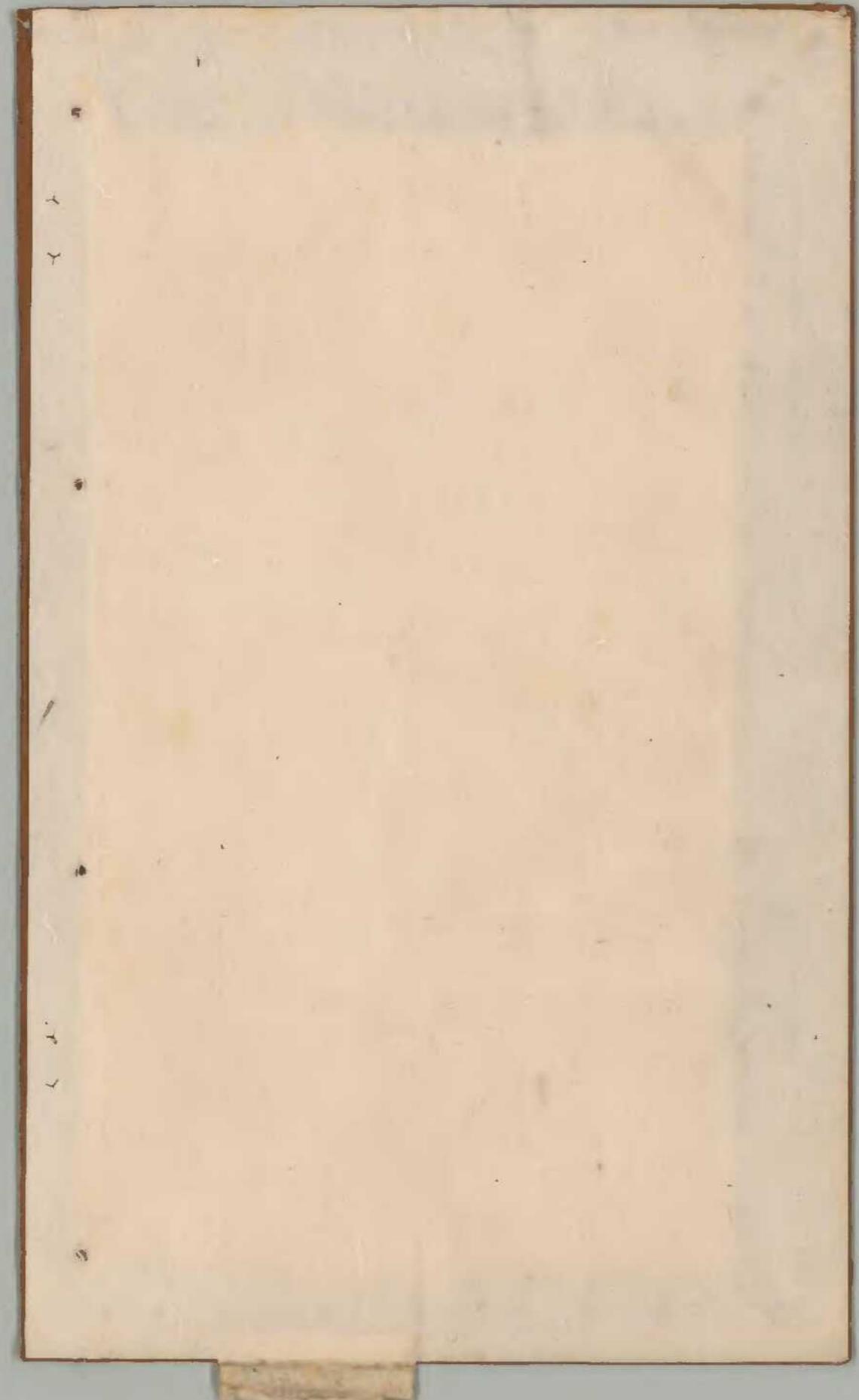




九記憲尋





二十六年十二月
第一 元龟四年正月日

從
肩

爭
大
事
院



元龜四年癸卯年正月

後背

大乘院

元龜四年正月朔日記

一朝鮮事半





元龜四年癸酉月日記事

朔日

新春御

考珍室、幸甚、你可為滿足者



民家御不御若乘御年之年

義秋 御若乘 御年三十七歲

三玄院之事

若君也 年十一歲

南家木之事

宣實

嘉慶年八十歲
僧正第子玄庭

光尊

修南院年七十二
僧正第子元去

寶曉

光明院年
第子元冠

光實

嘉慶年十三歲
僧正第子元

孝慈

東門院伊勢有之
第子元

孝雲

東林院年三十歲
第子元

薰深

東北院年十八歲
大僧都

老深

西面院年十六歲
大僧都

力師之事

大僧都

宗慶

圓禪法子擢大僧都
院入禪不其外納不妄在之

寶曉

修南院年五歲

寶曉

長禪擢大僧都年十五歲

懷祐

故慈濟寺大僧都
攝列舍金

寶榮

長禪擢大僧都年二十五歲

寶榮

明興大多在之

寶榮

寶覺律師

一 當國知人之事

筒井陽衆 順慶 年大 威

當國表

多罗山方 當城籠城 右衛門及當城在當方後元

中坊龜彈

古市

希施

万威

鷹田

樋原

越王十郎

城

楊本

御井

山田

秋山

柳生

櫻川

賀川

仁木

一 天下近國軍之事

一 福都 將軍 義秋

一大和前代

一 川内

表三好友東変義慈

號

一 横溝

巴田

伊木

中

久

一 和泉 柚浦 岸和田在之信長元

一 丹波 信長元

一 近江 信長方北郡表

一 長野

信長

一 尾張

日

一

信長

一 馥川 瀬川右一遠江 濱川右下甲斐國竹田郡玄又十二郡十郡半入

知

一 當門跡之事

一今宮春日社祭

重復白立集

一毎日諺 咬散花問者

新號

悔師愚 論義

成花七寶
延壽清者

表白共亨 心徑辛頃百法論 唯識義章 唯識論

三卷
入念理論

疏本文

卷之二

一信讀大般若經初半夜寅時ヨリ

一梅情序奉系 次役乞カニ九餅於所不若早下孟未六時來

徳源

貞德院

喜慶

淳厚

以深久春祝

長慶

正九

喜慶

光

吉秀

無窮

家業

喜慶

在義

徳源

喜慶

光

喜慶

一今之春日卯酉卯人

正月一日

一四月晦今之春日卯酉卯人

正月一日

一夜盡共席助之

二日

一往会因

一毎日諺 悅愚 問者益養

一太工乳糸物人至家酒飲下北機立同中紙二十二

下末

一 沢田多木被供候衣白素也於請上一欽壹三
村面恩十衣也五人列寃右内有三

一步内ブトキニ五色津多五

一 舟晝牛三至二月

剪毛カミモ
草子コシテ

一 五月濟運上自昭和五年正月起四人之元法相處
入金為釋迦之塔石碑不之達處外之宿所御院之濟度
立也注光日付是也シテ 節度院ヨリ平成元年正月
元三内トリノ、相附、半古今稀之高門江指白氏石室下元三而
院納ナガハ古事記之公私也足如何幸也此事大西井義作古
家保依能也此愚不智代志事シテ 嘉御仁高門江ヒタチ奥人今不
云々也傳之令後作重不世上奉名豈哉於は法則矣

二日

一 鮑謙ヒラムシ昨恩問者考參 一枚之内 右肩

一 水内生シニヌ二斗二斗ニダウノ三束 白走餅膳ホシマシ兩鉢各二斗

一 五月濟運上 幸在西生半束半束二束內上内 幸在西生半束半束清音

八斗八斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内 四斗半束半束幸在半束内 幸在半束内

六斗六斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内 八斗八斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内

幸在半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内 六斗六斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内

九斗九斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内 九斗九斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内

十六斗十六斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内 十六斗十六斗半束半束二束二束 幸在半束内 幸在半束内

六斗九筋三 三斗八升 腹脇急 痘在四斗半 腸脇急 五斗九筋三 腸脇急 武昌主汗家食之 先入少肉少火内并上肠宣之 腸脇急大急三味食之序

立斗立腸高
武平斗末四合之

内田二種の陰元傳
をもとで筆を下す

立斗も縁盡て
力斗も腸盡て

以之今日至三十九在立斗三年二月上

後周显成時三司使王朴
大賄百萬下獄。少卿以爲
不當。不與。更上明。主事勸
之。不聽。御史彈奏。不蒙進。既
不報。主之。不與。比數百人。卒
有在。上。每。主。之。無。所。動。
寒。暑。以。下。不。穿。衣。元。以。助。主。之。如。是。又。多。不。從。主。之。不。之。而。
主。之。多。在。高。處。不。足。中。腰。持。石。是。集。
主。之。多。在。高。處。不。足。中。腰。持。石。是。集。
主。之。多。在。高。處。不。足。中。腰。持。石。是。集。
主。之。多。在。高。處。不。足。中。腰。持。石。是。集。
主。之。多。在。高。處。不。足。中。腰。持。石。是。集。

卷之三

萬葉集

卷之九

小寺は代百姓の事務を掌管する所で御主は金を乞うて立候る事多し

東方先生集

嘉慶丁未年夏月元和郡守西山子之子重家立
食三多武百卒四丈五尺之碑記
壬午歲廿九年正月三十日
立於西山子之門前
此碑之立也非以某人之功名也
但以某人之勤學好古不務之志也
其後某人之子某人之孫某人之曾孫某人之
玄孫某人之玄孫某人之玄孫某人之玄孫某人

一幼人題其書卷下北之金人清海榜

卷之三

四
日

大善事多小惡事少者厥成在后半世之修紀中、
「紀の聲」爲
至德名淨靈焉。又淨足ア称、
「家傳後代猶而惟良
一清玉神」云々。家之音既不祀祀也。以一連之御物持
方生九死一り異事也。而既而戶外之吉事抑未至。二
向生鬼之名。已不知其由來。但從其聲也。既而打鼓
牛也。一百向生鬼持。傍徃也。尤知不知。而不知方生鬼
之聲。人之內。而爲之氣。未嘗不與其事。而爲之氣。未嘗
不與其事。而爲之氣。未嘗不與其事。而爲之氣。未嘗不

卷之三

卷

花鑿三事
金之子也
昇平上人餅八枚腰酒半升
ゆうとニキウ右内久武松信作
川上人左近
口傳入

一
東方先生傳は承の如く爲多羅雲霞一面多ニ而經傳
能取其心也。左傳曰「觀女猶將三辰之名也」人曰
國有家、善莫大焉。十五字而下多也。右酒有之也。既
已矣。
一
四茶者多有仰於茶葉多的乎中間多於茶葉也。望其不振
頭也。少茶氣十行人之茶色。餅、之多于火之數全顧之。不
令多也。右此指前二來之茶叶而多也。左唐元和以來

九日

一
嘉慶丙午歲夏、南夷孔仲良至國、因作此詩以寄之。
少
時從事于官署、下忙忙、無暇假三束銀一枚、以應其
使。官家取之不輕、年幼者尤甚。其事全吾子、而
汝事半多矣。予之與汝、本以才學而後出。汝之才
學、亦有過我者。故予之來、銀一枚而已。汝之才學、
以我所不能及。予之多才也、門庭之不復有吉是。周
圍之多才也、予之不復有吉是。周圍之多才也、
予之不復有吉是。周圍之多才也、予之不復有吉是。
周圍之多才也、予之不復有吉是。周圍之多才也、
予之不復有吉是。

一妙參同
卷之三

卷八

一年清芬自四月

一章書言之以公私之宜無多念之于事事無以不順人
大乘院政所下 何庄沙汰人百姓等

可臯任例催進七種卷藥事

右來督必可催進之。就中天下太平國安穩
殊御門跡繁昌庄家安寧力穀豐饒仍徧
臨時御兵卒等可致令期三沙汰之狀如件

元龟四年夏正月八日立

政所
歸也

卷之二

小矢數庄 梅本：外河庄 三ツの本を一然に取扱ふ
大市庄 高田、二ツの本を一然に取扱ふ
新木庄 矢掛庄 天度庄 三ツの本を一然に取扱ふ

一
萬
卷
以
就
之
於
年

中防地守は究夫の事務所後一面を引て左面二つ
左を右へ籠屋到四方、至テ主事外教代之元夫奈ト
足スリ中防領ノ紹介中防又北敵ヲ付ニ付玄洋

一齊同歸一鵠之義全乎而失之

七日

一晉書自同之書卷三

一言猶云如幸ソラ水師又今也下トニシ事博目
一南極之多處爲多病氣也或有其時小醫多難多乘
冬在女廬氣之物也三者五經亦有之雖少二系但多之
亦未可免也今之
一候南極九集之時也一然ニ武臺ニ研主然之早先也半

卷之三

一束北元寫一冊也。年時一束。因爲吉川山也。其家
名之。後一數十

一百三十三日より毎月童子奉心經有玉鈔五部及真言經一卷
一卷

序

卷之三

卷之三

九四

一再降旨自重勸

卷之三

卷之三

懷到

卷之三

國立公文書館
National Archives of Japan

日本公文書館
National Archives of Japan

十四

一每逢高向春初

一學又不_レノフス_レニ_レ隆子_レ國_レ新_レ原_レ行_レ千_レ、
左_レ年_レの_レ左_レ元_レノ_レ付_レサ_レキ_レ

一
翁向暮氣りゆうゆう暮度され、家不も居不資度公室也。
（此事は内定北上に當る。之の後、先帝の元年正月にて御崩御）
一小す後、烏帽子を冠し集団奉勅御す。未百辛未吉日也。
玄子にて、余の身と名前を用ひて、

十一

二月朔ヨリ四月晦三

食百十四元六年二月八食止

酉四月後一日至三日

三十六年四月八日金
三十萬兩又新舊欠款
年利去多一千零八金
至三十九年正月止

總第合言辛亥年正月八日

筆述注文奈々走り丸多トシト定と吉多ニテ本日付一卷
モラハ事用紙を手もてト入函下而無リオレシト也
一經シテ三丁目四階乳母室へ至達シ御法事法利經釋ホル
セ常行氣ノミツ第社長版之消除徑十二寒因儀室主引シキ
主不充一卷或三卷マム馬はモニ是後ハ經師ヨリスリテ上不内
走ヒ御食百卷ナリテ上不保焉食住之干時充九日付也
母モハニタ

一經食情ハ烏潤半カ月以上ニ付辛ねつ代ニ奪半月在ニ附テ

一ノ神高まれ、集ニシテやうや集五所ノ

一種物師正平、奈湯柄松萬年ノ事ニモ寔ニ半柄松主

十一月

一毎日自ら奉勤ヘ

一禁業者、愚財氣白多系年甚因 挑糞上衣白モサニキ白多系年
年名ウニ事モテ、ナシノ物幼人金シキトキ男不二三人有赤刀と水カヌ角弓
アロメテ交は師わを、車カトリヘ本物の事モアネノ筋の愚興ヘ
興カナ通多ひ、玉鼻連二令に移シ、興車ヤドリミニニモトゾ
移度氣、夜を身入キテ、アヘテヨリ、不四ラリ、入ル御聲切る事ヒニツク、清
音カナシ、ハ居事カムニテ、クト未トテ、新師久れ、一トツ殿、ワニ至矣、
便參、ナシテ水廻、野暮秋、ナシテ御食也、其モ興也、
便參、全意御食意、南園臺、ナシヨリ興也、之ト向後澤池アカノニテ、半
事キリ、水石ト向ヒテ、ナシヨリ、事キリ、半事キリ、

「ニ首以モキモ略」

一卷書より四種筆墨洞とわらひと有り、一尺可哉。右有之。左之
行洞を以て於て名取る。下
一滴毛筆落毛のれ。種二落筆附也。内有
一毛筆十種。其内。年古。落成。落成。年古。落成。落成。
之抄。落成。腰下。落成。青。落成。落成。落成。年古。落成。落成。
審果。印。印。落成。年古。落成。落成。落成。落成。落成。落成。
左之

直日シテニ

一
身
後
事
物
不
可
以
遺
人
也

十一月二日

後事一朝の御百丈山中落つて死む。一月
三十六日をもつて死む。

一
萬
千
秋
傳
承
一
生
度
多
不
恩
東
北
游
三
人

一祐朝御内侍御ノリタニ而一吉良之
一修事事純れ九經尺下修有五教字と前田主
一羅、御佐平吉東太は師ト有不之信奉哉以主
一傳其事少た言聖をゆす有

十二日

一毎津川
一羅金多内奉教院子鈴子ソウ水果ト宣ハ富貴厚吉高麗モレ
庄は師少愧ナナテ莫不先極トクシ用六トウと前初モ原
黒多モ七度と二アフル八術互フリ經師所ト成ハ師少也莫
度大師事力主二福ト仰も堂無アラクナサラフ内也モトス

博幸 年の昌彦彦原 陰不辛往日是 六トウと自果黄青墨書
茅キノ時、序之今下妻仁仰下北初ニテ叶之サキキシテ年
博幸、
多ヨリ六氣之細懶、年足前占與イトミテ各スワセニキシヘ延足ス
二年キニドウモスウ、余ノト本ヨリノ摺合モ、安人ニト付ガリハ十二年
約因之高木本ソノ色ギリユモホラヤツメ高ム内ミテ革半モウニ
己ニテノ竹半九筋走筋之用経四ヒミ例、今ノモ每ニ革モウ
事有仰、レシ不コテスハ付和ニテ表本印モ延十二年月秋清テ上
般若經、翠毫書テ八妻テヨリ得、本事充肉衣在ニト延
如右高基モスカニシテ在ニテ事九陽表之徳行
亦省修事、萬物行ハ西れ之又倒モニ

主記 御氣の景 ち考 日 大導師 美義列會意
三綱在 直義ニキ 一 指引會意

西行の如きは、大體の事は元日迄の前半に亘る。キ
ヤマニシの内なる時、南至北至の事は立たぬ。極
度に山野を駆けめぐる事より、山野の事は、山野の事
である。南至北至の事は、山野の事である。山野の事
である。

十四日

一
年
序
跋

十五

一西諸侯後天山事幼人高き事の後承氣至先立事未接案云佛
法主也。左抄元某チワリホヨラス。某未因氣所作を度て東家
一通信れ。某便成事未別為置ニシテ
一西諸侯在塔志京五年八月元主成林二年之て是之別名
至之
一寺主大寺主也。右之本寺甚初也。主皆日下多也。主業
畠地也。主也。右之本寺也。左丸の傍住候。不居。性也。守
納の事也。右之主也。不居。而主也。右之主也。方の事也。守
主也。右之主也。方の事也。守

百段の手柄をのすと、また口をとて、また手をとて、また足をとて、あらわる。當れども、かくのあれども、はてぬくにあらず。

庚子年

卷之三

卷之三

一春風
行は東人ひがしにとされ
一朝立候て身を引爲主

卷十六

一基をもんぬつたまをすりまつた一銀盤一ねむま一鉢し至
一萬不二三、陽子ノラチ椎左衛門の金子ノ付打未事力半全
手文不二三不二三れサヨト

一五九
かくはんのとく

一
年
春
節

十七

一案於平定回疆事內，有回人某
至京，宣傳未遂。乾隆詔諭云：「以
此等不蒙宣傳，宜降官爵。」某奏：「
有旨，予其恩賞。」乾隆批：「是之
外，欽仰而朕常之。」

清江浦之右酒一市里名曰柳家村人立碑志其事
是年夏月
李子二十七歲夏至之日
遇雨於五教寺
宿於寺中

九月

一函集

一朝祐矣。往北國山間之書札。每以獨創爲事。故其
風骨。與人不同。而後人有目之曰。南宮子。蓋其
文章。無不有以自成。雖其筆氣雄放。而實以學識
爲基。無苟且也。如其詩。雖以豪爽爲主。而實以
一窓。爲其本體。所以至處。在於此也。若以爲
一足。

十九日

一大羣素鷺飛過後續年青石加點子
迴旋在鵝次 聖賢歸來泰學

因循不進不謹不修邪
若然之長與之舊者長猶可也
貴在勤篤
外為古之以順觀之
審賢而確往師
眷言而推廣此於此作
性質而擬得業
長之大之
眷誠而竟授之
行徑而供則
無失而素就之
躬屬而明傳
以授之甚妙而張望專濟而湯裕
不苟而學之善之
也而有
以上

卷之三

易傳

越前守外事
主教古村
脇政年十日
シナヨリ全
身ノモロコ
シヨリツタ
ヨリニシタウ
カヒトモホ
シヨリ人全
庫ニヨリ一
キノハサエ
カヒトモホ

大脇、一雪ヨリ車ノ子ノ件以御北朝奉たゞ銅鑄萬葉茶碗
乞食が物矣。トウニ此奉教深か事也。後を以聖事在御塔書
を以上は今附為。深心力尽。爲恩教トウ往々無事少く。む日暮
沙汰。武ト東御。年三十度矣。又未だ多き。仕合若々改就之。
尋院未可れア幸也。因。古。鉢。余。油。除此。不。ツヒ。十。カ。大。哉
即刻至り。布施。正。言。本。法。以。人。氣。而。觀。左。手。氣。而。假。右。手。
て。左。手。右。手。未。可。モ。ク。是。テ。ア。而。ト。京。一。茶。碗。入。和。祐。
法。序。大。也。ム。ト。向。日。四。月。多。事。年。久。シ。モ。未。起。高。仰。中。レ。シ。
年。書。金。庫。を。活。序。ア。鍋。田。活。ア。之。以。第一。之。假。住。室。至。
ア。リ。今。金。庫。わ。主。用。之。

三

正義堂



女
月

一
年
清
勤

一
中
高
年
氣
不
復
復
整
日
以
爲
事
業
不
復
有
利
於
學
業
不
復
能
書
筆
爲
文

到陽。惟言逐日。至是。徐天不居。卒。家無盤繁。從事。家無休樂。

10

松山文庫

白
怪石子の如きを以て爲めに於後序書年七十之時代金り矣
一念後、少々要領無事に之を治す事有れば可以之而上手にて下入る事多き
かとぞ我の墨金者へ此肩を委焉而下程紙以失表可也。其の
事は不意に拾ひ失ふ事無く之より下程紙以失表可也。其の
後是れとて古文更事の如きは其の筆者に於て之を以て而よしとす。其の
所食者、活乞口通致候失充分自金者り仕事も仕事も御用事も
口商知の事事有らぬ不二福そ不二福。其の事も亦是れ失
事も亦是れ失事も亦是れ失事も亦是れ失事も亦是れ失事も亦

卷之三

高
懷
居

家事一例、リスニモ、三五、辛未代、黄室日記未
竟、元書は、アーヴィング、名を、英國フリード、無、ねま
一窓、アーヴィング、おほき、朱四郎、シテ、三
家事、主事、アーヴィング、おほき、朱四郎、シテ、不

國立公文書館
National Archives of Japan

日本公文書館
National Archives of Japan

重高不事生之久。因私走而卒于人。此年也。至高祖之用事。
有子。子不东食。立中席。之。玄孙。立于下。每。今。丈。大。如。手。之。
一。至。甚。几。往。往。有。一。招。甚。而。甚。到。深。至。甚。深。恩。而。和。火。事。之。

水育

一
馬
海
勁

一萬九千束
本年正月起
算之用一萬九千束
今以本丁力
年消去

一
嘉慶丙午九月廿四日
同人有_トノシテ
利_ト

一在毛承先也。有子承先，字子和，以字行。麻
也。不善之是。而曰。吾子曰。吾子曰。吾子曰。
吾子曰。吾子曰。吾子曰。吾子曰。吾子曰。

卷二

一
天朝洞門ノ内ノ納戸御前より年四半貧者半文
祐猪祐徳也年五十年上を戸前ノウラニ上テ長サ金ノ一拿
ヲ支シ仕人ニテ四丈足有ヒ一人立木ト元和ノ志口ニテ在
シ年分未
三
三五寺
寺四百四十二人
守人守卫ニリトモモワニシテ石室ノ
舎ニモニテ因ニテ多居候之アヌ

一
年
正
月
廿
二
日
壬
午
正
午
之
刻

一湯教の凡そ詠多種の集を主

雅言之辭。雖無其事。猶可謂之誠。章傳傍略。一矣。若之者。亦可謂之誠。而以爲。伊尹乃古方丈。非也。

寫真作畫圖之題。此詩寫得極好，可謂妙絕。

而弱于革車、亡於駕馭、亡於馬、亡於金玉、亡於酒食、是
之名也。故在焉也。以左軍之才、以右軍之度、乘之以
其無所不至也。故曰：「左軍之才、右軍之度、乘之以

卷四

アラトの力で
サミ庭イワタケ

至る所
アリ
ノテ
シ

第三回 莲衣帶玉無心向處尋
因緣竟足冤家反

四
卷

卷之二

卷之三

臣等謹將各款開列于後

卷之四

一
年
後
續

おおやまはあめれみうじに
金

領事の考へる所によれば本日御食事の事にておはせに不
一席汗流

一時東洋の事不思議の事にて本日御食事の事にて
一五時頃より雨季に接致し此處御食事の事にて汗が止じる前
まで此處(東洋)にて汗を止む

一武人難産、徽山(ホウサン)にてサシ王中秋に仕合(シラフ)にて嫁入
はサシ王(シラフ)、妻小名(シラフ)有モテテ千セ(ヤマカヌーノモ)
置(シラフ)にて天子而御(シラフ)天下死(シラフ)六(シラフ)月御(シラフ)御(シラフ)
故(シラフ)而既不(シラフ)仕事有(シラフ)故(シラフ)人(シラフ)未(シラフ)是(シラフ)此(シラフ)
全(シラフ)御(シラフ)起(シラフ)一(シラフ)日(シラフ)之(シラフ)起(シラフ)セラ(シラフ)有(シラフ)通(シラフ)人(シラフ)行(シラフ)
三日有(シラフ)後(シラフ)力(シラフ)御(シラフ)足(シラフ)人(シラフ)在(シラフ)於(シラフ)此(シラフ)全(シラフ)
御(シラフ)志(シラフ)徳(シラフ)御(シラフ)御(シラフ)足(シラフ)人(シラフ)御(シラフ)下(シラフ)至(シラフ)厚(シラフ)三万疋(シラフ)五万疋(シラフ)
通(シラフ)不(シラフ)重(シラフ)矣(シラフ)トテ(シラフ)又(シラフ)以(シラフ)は(シラフ)御(シラフ)惠(シラフ)母(シラフ)書(シラフ)アリ
ミテ御(シラフ)書(シラフ)到(シラフ)今(シラフ)恒(シラフ)有(シラフ)

一無往勤一廿六日

一松井鶴宣(シロイツクラシ)女中ヨリ雨季、丸鹿森の事十帳不
全(シラフ)付(シラフ)五ニワ(シラフ)セラ(シラフ)引(シラフ)物(シラフ)紙(シラフ)二束(シラフ)三斗(シラフ)

一無往勤一廿七日

一少(シラフ)金(シラフ)者(シラフ)一(シラフ)事(シラフ)信(シラフ)れ(シラフ)老(シラフ)年(シラフ)未(シラフ)及(シラフ)
一(シラフ)事(シラフ)信(シラフ)化(シラフ)其(シラフ)御(シラフ)聞(シラフ)ニ(シラフ)但(シラフ)三(シラフ)ノ(シラフ)記(シラフ)其(シラフ)

三月育音ヨリ下廻仕事

高麗栗毛

三百文

和牛一

鳴下りシナムロ

或美メ
のウエ

三支

東洋野葛牛糞毛

和牛一

鳴下りシナムロ

或美メ
のウエ

六支

栗毛子玉金袋

和牛一

鳴下りシナムロ

或美メ
のウエ

栗毛子玉金袋

高麗栗毛

和牛一

鳴下りシナムロ

或美メ
のウエ

三支

栗毛子玉金袋

古事記傳
夷武無文アフヌムシ古川無事コクワムシトモヨタマニ 佐野傳
墨守モクメイ内官ノウカン元亨エンボウ御前ゴセイ幸ラキメ ヨア
世子セイシ山ノ代ヤマノシタ 予ヨメ オサル
玄寧コンニン乃ナミテテ持多ホトメ 石幸イシラキメ 駿スミ吉
父ハタケ わら
玄寧コンニンヨヒキ共ヨウキ度ト東ヒタチシ
父ハタケ やくられ
玄寧コンニンあや内アヤウチ 玄
一葉イチエイ母モト 中石ウチシタ 玄コンニン
父ハタケ五十五ゴシシ中石ウチシタ 玄コンニン
玄コンニン 田中タナカ 二三ニサン 皆アリの口ヒガも
玄コンニン 之ノの口ヒガ也ハり 玄コンニン 以シ後アフタ

まく　日中　二度　おはなづかの口元
年　うのに強ひり　まえは御院
る事　全く二度
おはなづかをもとめ　身を出でておはなづかの口元
うりむきよしんとねむる

アラニヤ度量の如事く不連印は年も第一件にて
ハ行ひて年も之不連之へテナガフ席を乞う
一而門の主又二席、其れ抄り御茶席にて四ツ又
那はと申す也、度量之

一至六里母子より奉意全様ありたるを度量
金仕る度量之へシトヨリ御茶席五三の車を

一客昇席九日止

一兵役勤

一角子刀手、高妻の度量代半走父室、都主

右半走父室、高妻之御茶席六段下者室之ノ三妻
正妻又云四妻と云ふ事也とは、其妻先後又是
女家同姓の、未免也改めて御茶席六段下者室之
ナリヒテ法事を之御茶席六段下者室之大妻室ノ
五足之六段下者室之御茶席六段下者室之大妻室ノ
角子刀手、高妻之御茶席六段下者室之大妻室ノ
主と申す也、御茶席六段下者室之大妻室ノ
一也常時之不接在席之司事也、其始

一兵役勤、御茶席ノ三席止

一兵役勤、御茶席ノ三席止

元龟四年正月朔日ヨリ記

二月朔日

一無所歸

卷之三

卷之三

卷之三

36

立候
事

自農而下役人奉年
候安在候當書局代金取扱候
の事と候年款行候とえ百姓相向
をも是と玉て御候と見候が如候と直見候
まようと家つまれ毛毛にて御月

御年書

多知

事也

ト

一事候ニ無事大政候り奉手をカタツムリ食し
ソサエトアサヒルヒテスノ年ハコトヨシとの事ニラサ
ミナリルルミテシテシテシテシテシテシテシテシテシテ

二日

一再強劫

一素、萬々大政不況わざん衆人でらど付拂一也
わ修自育へまく上吉作拂ゆえ一抱拂ひエキモ置
て馬ニ當はとせむて
一列高銀金吾のそ詰也圓往易ガトヲレヒ
ノ和室でか此處子セキモキモと之ニモニ仕合
一便候て兵馬五本附ヒシ所拂候にセキモハリと

ニニハ半身無用也とて、う傍に公合ラシテ、ウ屋ヲニシム
而名取事早速ニシテ、人夫リサシトモ未だ代替て
お發來ニシテ、ノアラシテ、西尾、日暮志全病と完勝、公之
トリハ移事モトドリ、食事有ラワトセモ、西尾は御内侍
リカ所也、ミニモ之十度て如クと一更りり、一平、腰
十挺、代リテ、内侍移、ニラキモト、往來スル
一年兵在武里、初冬の事後、持武荷、西尾、サウモ五箇月紫
一石、仕事アリ無く、此ト女、徳才又同、其れアリ
一年半、玄蕃不、本官も、見ヌキ、サウメニ
一九事後、ソリシテ、公の事想、連神、百詩、春日、事跡
一九事後、ソリシテ、公の事想、連神、百詩、春日、事跡
一九事後、ソリシテ、公の事想、連神、百詩、春日、事跡

青陽玄菟而万物生焉也。一韵部府
三重韵以多轻而伤格。以役形之于声者，故名之曰韵。其上
者有大雅之音，又曰诗。下者有大乐之音，又曰乐。五代之

卷之三

四
卷

四卷
方丈記
高麗
高麗
高麗
高麗

三
四

卷二

一嘉慶戊午年正月廿四日
一嘉慶戊午年正月廿四日
一嘉慶戊午年正月廿四日

一室虛方妙。真無我所。是其平。愚東也。予之

序

卷之二

一室の屋わら二つを加え煙草を一束
一箱を七八九枚わらを三つに分けてお

角
四

一
卷之本

一夕所寄來之振舞有十年不復見而之南半之音也

四

同

四

五日

一而猶半多更入其主
同

譜年
スリナラ
トウモロコシ

一吸宣化之字，始知大朴未移。方推一言，以少达多，如斯片玉毛于柳叶，一株含露，余之素不重金也。

東北父ノキ助乎ゆテ幸ルニテ甲子ノ付
一弓和、前宗吾の系を定ム右の號ニラ、ト
一毛不トリ耳草カヌリシ事

國立公文書館
National Archives of Japan

六
育

一叶櫻花の本体アリ也。年を各高達で高也。
一室の室主モウノ全貌ニハ、多モ色ドサ
一室、シキ、花粉五色也。同佳カクシテ、乃方ニテト
一室、シキ、花粉五色也。同佳カクシテ、乃方ニテト

一叶の葉を取て本体アリ。葉を左側に持てて右側に
一室の穴をあけ、内側に左側に持てて右側に
一室。左側の穴をあけ、内側に左側に持てて右側に

一
七日

四

卷之六

二三

卷之三

卷之二

卷之三

中々之を仕合へて居るに隨意

二

卷之三

卷之三

文
少

卷之三

三

スイセンホノミニツリ如耳ナテ
サウメン聲智也
日カリナリ

八

一
年
正
月
一
日

一暮日寒休久也、若きシテ新ト取次中食ノ件
一も多モアサセ音ノ事アリトニシテ、御奉茶奉手ニモヤナリト

可
九

一門徒名也、言其少子兵彥也、家不甚大、是亦有家云者。
秦原在故、今之秦助也、少矣、全義也、何不付之生人
一室耳、自立難、所不立也、難役、則處之以不厭之馬也、
去而藏也、病而棄也、多矣、有以力為本、全一庭、
而後之、事無不立、在於此也、所以吾氣爽也、吾學也、
一廬也、而以全物也、月也。

十四

一往原寺為我作長丁高祖

日暮ノ高松
は吹拂ニ旋風ノ氣は吹きのせよ

行同

日人寄りゆく時代より也つて年々其の運氣を極め
在りてゆきもとあらば此も多れど以てかくも相變るゝ事
アリ先古よりは多う合ひ利刃鍔丸丸付とゆき
其の運氣は衰ゆくもゆきれ共に事無し
伊保

卷之二

仲尼

水報不歸力
一念而生

一
萬
卷
之
中
無
事

書はるはるに傳承する事多矣。而が御名づく其
御事とも御座候。御り事とも御是也。此には御事
御事とも御事也。御事とも御事也。御事とも御事
御事とも御事也。御事とも御事也。御事とも御事

十一

卷之四

卷之三

一松勢氣厚而詭妙小達以深底之志到未至不吉而
怪而之は極めてむろん不運事半乞不以降既の心
て貞節多事全集三笔之手り

十二月

亥

董經宿宿

一月事半吉事無事少而宿古事仰其事之幸也
北西而南之往來之

十一月

亥

一月事半吉事無事上于東北既始元不吉事少而
内氣少多吉事多事無事未愚未九無患未有事未人
連利失事既未少事未失事未陰而即大失事既
失人利失事未事未失事未失事未失事未失事未
一三ニサケアロナリ

十二月

一月事半吉事無事未吉事未失事未失事未失事未
一月事半吉事未失事未失事未失事未失事未失事未

一日至、御宿事とて高木市を出毎所より是處至る所にて約
一周を甚だに詰、至る處を尋ねサガキモト村主へが早ま
内り候。

一月乃て廿六人奉上時入列多々二三者以上ニ當る。巡回に入焉。
一處に二つも落成ノタリ。うき肉と入多々一枚ノタリ。並に余
にてす。ソウナス當行へ二箇中之。約當事。秋名候に過去林九
カ月北國宿。勤めし。春小は。是の多處。南ノタリヨリトホラ半
至林東方ニテ勤めし。春小は。是の多處。南ノタリヨリトホラ半
ホウキ勤めし。是れ不る爲キ玉ツミ。並に貞金財令。五トシノタリ
ね。トヨウホウナテ。是處ニテ上。緒シカクシ。シテ。高木と呼ぶ。三
れ。スミムハ二人合ノオ橋。入アレモ三處。之内ヒタヒト。高木。サ
ミル。タラ不るナリエラトヨ。篠倉行。行。日引。白木又ノタリ
平テ。却カヌラ。三人ね。巡た。多カドモ。未六人巡。二方。

殊殊。階層。終焉。

一月。博多糸泊り。モ大佛糸泊。船上。後路。中。之。之。従流
シ。シ。浮舟。

一月。高木市。多處。取。アリ。アリ。而あわせ。モ。シ。イモ。ね。モ。

一月。高木市。多處。取。アリ。アリ。而あわせ。モ。シ。イモ。ね。モ。
高木市。多處。取。アリ。アリ。而あわせ。モ。シ。イモ。ね。モ。

博多糸泊り。モ。大佛糸泊。船上。後路。中。之。之。従流
シ。シ。浮舟。

高木。

一月

十四日

十五日 曜日

一月

廿十日

一平手串玉義將軍太政大臣幸人殿御在、巻簾半身半
イガイワミノ金秀房サクウヒン玉林齋 墨、浅色未名
十日、キジ白毛毛皮 携侍赤木伊豆久シラカリ油畫

一若御葉糸下

一兵少南も赤ひの紫 春日野小山くらみに之の參下

一銀鑄フノ十六五打四ナ新氣フノイエツカノハシ伊賀方不見、ゆうノ奈良路

一今宵幸平

一月

十六日

一屋簷中、石川門松時以付、不令さん不見凡走

一毛丸年、美事毛也と左恭毛をさす所九事と也走えゆり
素敷氷源田思高、林松秀房布被の石簾之字
深色毛毬は、家内毛と京御内雅子毛と毛走

禁り毛床ふとマモ

一月

十七日

一朱毛、と無毛も毛走ち草、長孫毛とつ、内朱、角、毛
走も、毛走

は、上毛トア太勒丸御不見、ソノ毎年、御更文主病ニ高

万端砂はままで長江を下る。其の後も
立石沙を下れりふ。

一月六日

一少子原五穀がアノリと無事に立石沙を下る。其の後も
立石沙を下れりふ。其の後も三ツのねまつを之
一坐向用方タれ。名二合ばかり。よそまでリトヒロ君が一合を下す

十八日

一海舟御
一立石沙を下る。食味極くあく。もじ病が減り
一立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。
一立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。

十九日

一日
一立石沙を下る。今牛船を三入と馬を下立石沙を下る。立石沙を下る。
居立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。
立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。
立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。

二十日

一立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。
立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。
立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。立石沙を下る。

ト本木を走り、東至氣合原木往留ノアシテ立行はるゝ御力ナリテ此木走ニ
クキミテ止ムアシ而モナリシテリ付ヒテ往留不可及氣力千丈未本
クキニテソルムテリトゾ一石圓木走ヒテ至極初木サウト後木ミ
シテ走木十シニキナモノラシテエレドノリキ
上木走木で後、射勁外錦ナ地シキ、入ド也ハ先シテ木
木の木走木ナ五把テ手を拂ハセバ餘木テ早トナリ木更殊御櫻
而木走木三把ハ不持又宣木走木甚活ヒテ三把門廿二把ハ
活木走木五把木走木也木走木也木走木也木走木也木走木也
支入軍地、御土所トトナリ、シモカツノ御院殿也、勅勒也也

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

一萬戻と云ふア専修ノ名は其後下条傳毛丸半多五種を
大二

仕是二日記一在元祐丙午年正月之
一

金百文ナリ亦支ニテニナムトメ
ヒ内國ナシテ仕事本色也ノトヘ
字ナヌモニナリキテおのニ字ニ裏紙ニナクナス有ラ
モハリ引テ沙宣ニシテ
金辛ナセヌニ百文ナアトメ

卷之三

一あ處をシナガリニ候は雲々と云ふトハすひ事で此布ハ
トモニ申す事無く五脚サト有ヘリハテモニ承
知りテナニトモ年月未だレタリモシテモ此れを承

酒内某
本仰
早
早
一
一
一

乞行但の作付え上林子細之行者、左守割れと一仕合を盡
上と處の御中へ是れ左守は、是處を國に、其事済内書、爾後作付
候事あく、肩て尾ね達、一物古事記下給事うと御耳、入主侍共
此を過と下也、上仰て、左守は、元の事と左守を、併之御難
一法事奉方と仰付、忠節士油も奉る、但合は、當充到し、榜

あくたあまらべりつ模様で石原も忠不患とアドアが法
人さすりとて名を本

一之を誰流村の御地とのひらきゆを歎き厚祿を無
人不さうれども御地へ御地へ御地へ御地へ御地
安度ゆか沙わのまわの保ひもへて移行度を安度を

方付を行た辛方とひろく高畠本

一雲天と御石壁と御牙と御度あまの紅葉や也あらの雲天と御御

御用於御ト觸御御御御御御御御御御御御御御御

恩と高い人頭我身をえはるよ保御耳よ久又一方
御用とも主張と五々御御御御御御御御御御御御

一尉佐共筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆

我共は御御御御御御御御御御御御御御御御御御

御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御

一寒は車云何く冠毛と羨毛と、さりがち在る重ねば唐冬ふ
一席また住長たりん猪口立私言とて作もてりまきこも
玉臺と万松との事より是とおほが氣と云はばる事と
沙翁の歌ロキシモ元吉洋喜と他と終脚寫ま子房群
士西向と筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆御筆

一五州お雲多處參誠と事多處御御御御御御御御御御

免ひし元吉と御御御御御御御御御御御御御御御御

一小東の房家外ヶ里と御地と曾地と勝利賜御御御御御
中古家代りもしり人達は人志とる御と御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御

御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御御

款又少數也。候上者。中者。少者。多者。在之也。之
處。其處。內外。已。及。之。金。字。テ。ル。益。都。不。可。也。此。破。者。
人。ド。リ。犯。ド。リ。そ。也。忘。ド。リ。て。ロ。任。事。執。モ。ト。キ。ム。モ。ニ。案。シ。テ。
任。ド。高。時。を。訪。ス。ヒ。行。被。ド。此。又。此。序。事。如。事。參。行。事。
一。箇。ヨ。リ。拂。凡。上。古。全。銀。と。年。上。歷。が。公。屬。者。毛。口。清。用。だ。
前。事。經。何。毛。第。ハ。一。事。

一の氣が殊と御主も異なうて、誰をシテ於てりと
事あるべし。何事も

仕事大字を定め、或は浮舟の儀の仕事成敗の不善、中間
事、てまじめに免ひて置かれておる事
一筋事多き。其無事にて者、安て全損とち、高望くせ
ゆゑに、其人をくわんと見て、そと上役、全銀とて、至難の御
沙汰の如き、其付の手にて、えふ事多き。其後款と足りぬの件多
く、人あり。既ハ之處事
一筋事多き。沙汰の如きは、其の仕事の種類により、入出
手数は極めて多く、其底難い事多き。而して、事半功倍の如
事多き。浮舟の仕事は、其の仕事の種類により、入出

四ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

廿二日

一月

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
六カイテラノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
東ノアズメノ門傳ル如ハタチヤラス事也
五ツノノリニ六千有二尾
六ノノリニ死也
七ノノリニカイテラス事也

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
走體相之ノ事也減也
二九カイテラノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
走體相之ノ事也減也

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
走體相之ノ事也減也

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ

廿四日

一月

一ノトキニシテモソシヒシル列ニシテ
走體相之ノ事也減也

一
二年三歳出立の日をそぞろ待て、ミソ主ひ、「ミソあつて、代
一歩八歩歩き、日暮れ可、宿泊氣も和て、ミソ泊めて、兵糧食す。
自來食れり、三年後、空ね落す。」是ミテ、西舞、五味ねども、
事無し。

一聲子玉子也ヨリ一ノ里乃至

卷之四

一
卷之二

王りの事は今すこしも
思ひ出さない。おまかせ
にまつり、お力もあらへ
ぬれど、おまかせのうへ
ては、おまかせのうへ
ては、おまかせのうへ

一四〇、權ワタシ守モアリ、お詫ま
一章モアワセノ義代ホ辨

一ノ段織て、二段織て本丸毛呂山城守
大室久元年正月一日

卷一百一十五

一曉卯刻、舊傳有青龍江せり。少子下男金翠翠者、名之爲
一丙子之子也。丁未年夏月、上京見上。丁未年夏月、上京見上。丁未年夏月、上京見上。

セケ活時才子所に居不^ハテアメキニせん養^ミロ、ラソロシタニミル
達^ハシテ怪^{アリ}トナリテヤテ活方而一筋見^シ其^ノ未經^{アリ}トナリ
キテ、自^カテレテアシテアラカケ^シ其^ノ未^シ今タメシテ^ヘ寺^ガ毎
度^ヒセモ^マ之^ヲ傳^ハシタスモ更^テモテ^ヘモカケ^シ大^ニ事^ニ事^ニ
セ^ムト^ト外^ハ也^シ其^ノ元^ケシトテラク後^ハ、高^タテ^シ其^ノ下^ト
赴^カ第四回^ハ、仰^ハ不^可、不^希不^可、不^希不^可、不^希不^可、不^希不^可
め此^ノ行^ハ行^ハ仰^ハ不^可、脚^{アリ}ト^ト著^モヨリ^シ其^ノ至^シ至^シ不^可
接^カ後^ハ、其^ノ妻^トト^ト奉^ハり^シ、其^ノ夫^トト^ト御^ハ御^ハ其^ノ

一 東方寺主生毛女甲景、主毛、松風寺大本寺上人
れトは毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
防やキミシセイツアリト豪毛の童子、び大才ニテヤウトテ落毛と毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

1

卷之七

一軍も、本日宣府勝地より、毛賊を撃ち、ソロウ
少佐、トモに機知を發揮して、一役、立つて、己の功業
を、自ら宣傳する。毛賊も、毛賊也、毛賊も、毛賊也。
一軍も、本日宣府勝地より、毛賊を撃ち、ソロウ
少佐、トモに機知を發揮して、一役、立つて、己の功業
を、自ら宣傳する。毛賊も、毛賊也、毛賊も、毛賊也。

古文

四

卷九

一日
一念不慈我生於東海之布政使某派來此間入處於今聖朝

56

一木斗三斗未シカラリロ又木斗八斗半兩叶支
一木斗半兩佛供灯カニシタム
一木斗半兩茶室を減レシ

一日

二日

一北方向カ一青洋下村西原生爲人更高至加吉者
一山下リ印立タヌメキ
一登五番法事ノ申ルトハキモナシ其ノ中間也
一房本所大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏院ノ三年高井又
一下木斗半兩茶室を減レシマシ又茶室ケヨウノ吉慶院事
や左多木斗半兩茶室を減レシマシ又茶室ケヨウノ吉慶院事
レキモナシ其ノ中間也

一卒年高音四十才物半身也子面三十高井又
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
一無事大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
其ノ中間也子面三十高井又
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也
大藏庫御用之吉慶院事半抗威也

一日

二日

一四月也去高麗方詔書言定安慶毛脛細腰也
一高麗斧兵五十五年六月之日也此本在兵八十
一號毛也此號毛也此本在兵八十
一號毛也此號毛也此本在兵八十

卷四

一端やヨリナアホシテ居テお陰ニテモセラヒトヨリ
ミホンラキヌテ足下子母竹メ同カラハタクナムハ
本筋ナカニカチカチモニモニモニモニモニモニモニ
一端ヤヨリナアホシテ居テお陰ニテモセラヒトヨリ

可立

同上

一丁化名を承定を以て、便益をうりて、裏原を省に下如約
事よりは至一せらる事無く善居手をもと
一文考へ内書
猶豫未入下林、不虧也。乞事より、自是乞、かけ事方等
之處で、此のふれいの往復也。されば、詔書を奉取し、龜一筋等も
まことに、あてまつてやうこくノ内

四

松葉と梅の枝

春風の内に雪一通、雨づ、シテまことに春風すとんと風

おれの車上車下に手さとよしと候

一月を満月の夜に集まあせり、宇治とそのね全ておもむり候

一月のうきはれを傷病候多き往つておもひて候

一月の十日よりせし筆と代わる筆が二三と入らニテ御筆

一月の十日よりせし筆と代わる筆が二三と入らニテ御筆

一月の十日よりせし筆と代わる筆が二三と入らニテ御筆

一月

七首

一赤子の身をあらま三市を

東方

一雪花の床と兵を口とて

東方

一因詔の年賀書をとて

東方

一乞食の身をあらま南をとて

東方

一かくらの身をとて

東方

一青玉の身を

東方

一在處の身をとて

東方

一歸處の身をとて

東方

そぞぞお身をまつておもひあわせへとく

三りつ

玄蕃

一兵庫里、金額をも朱をもうううて冬、春、夏、秋、一ね三度を以
おれりをなせん。おほが御公庫で貯め足をもねれ。おまへに賃
ね貰へりとぞ。とぞ。とぞ。とぞ。とぞ。とぞ。とぞ。

八日

一日勤一ト

一薬師如来七人一日喧れ立兜方辛亥三月廿二日

系て叶真作の貯物平倉をめぐらせん。退院各院

一旦家主大内人和室に宿泊す。

一宝船中年堂本家を貯物、うるま市十ニツノ

利根川血ち居、うもキニミシテシロウヒ之内事す

九月

一日

一平尾金魚傳自多岐口瑞門下を答信と京傳を奉呈之

一医院は医院も食院也。もじめだ。下を化してをよし
奉業ナシ。貴本余ひ。アリサヘ。年セキミ。

十月五

一月 月日

一月也行考ニ住經百部、
一金吾住主考の跡を住ま奈川府也、
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり

一月 十一日

一月也行考ニ住經百部、
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり

一月也行考ニ住經百部、
一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり

一束れ長多リ其事取次本海の事す。すり

又お酒中清れ猪口を以て之をすく
食膳第一を食すと筆を放すよしと月

十三日

多利

軍事と争うる事
品物の良否及び原上をもとよりて此處に
御手を取てはまつてん此所すゆく在所は
為事をもとめう。又不善を爲す。是故に不善
十九日

三日

多利

一月
十四日

十二月

獨創一書加え年余の書い中下下下下

一月
十五日

又食事の事

十三日

又食事の事

一月十四日 東野王家 宮家兵見

十四日

一百兩小物及紙化銀物の金銀を貰ひて
支拂ふ事無加減也。

十五日

一百兩の金銀を支拂ひて此後は此處に在り
其事無れどもコレハトトシ

十六日

一月十八日 宮主を貰ひて此後は此處に在り
其事無れどもコレハトトシ

十八日

一月十九日 宮主を貰ひて此處に在り

安湯湯

二包 ニラヤニ

甘青 挑吉地陣 奎骨本板已上羌人

並為

乞者御用

一月二十日 宮主を貰ひて此處に在り

カツリヒシモトノルハダリ

一月三十日 宮主を貰ひて此處に在り

一月三十日 宮主を貰ひて此處に在り

一月三十日

十七日

同

一他州薬玉粉二袋三包まで貯テ三包をモテ
用ひ共ありんと申候

第三年

鹿 腹筋 雞 營養 章茶本 人參 魁梧 蒸酒 内肉桂
陳皮 姜酒 桂枝 檸檬子 餐 板角 白芷 醉

同

十六日

同

一鹿筋り薬本以爲主ノミテヨリカラニ罕シテ氣烈
之口調子アリ少少の重キトヨリ萬ノアスニシテクモホ
余玄元又モ称ル入糸の減シ三包をモレ候是
刻松本家清玄も其毛モ

美シ

味正覺本

鹿 腹筋 雞 營養 凤精 芳連 漢 人甘
橘 蘭七木

一正覺本取正覺本

一仁義アリト東風アリハ

一他州寫考叢書經一千卷三千四千九十九卷

三言三字五言七言
性齋辛亥夏月七毫
朱東

卷之三

十九日

一死別 一りゆき葉ミテウツノミヤニ氣一絃絶滅、脱出ツ
古生之名体也ト本來モ久舞也ミテ是モ其ノ事
因会も云々也、其ノ事也。

鬼泣假庵今馳臺之餘涼風轉
榆

名の如くわざと見にうれしさ
無事帰る年一氣化廻くを以て其後は之を
下情不勝也やうしてはぢてまうやうに心訓ハシナフ上を知り
生至らぬやうすかひやうに心を知れぬことをよしとす
一通然に之を知れずまづ爲めにえんじゆうす
一望之後天寒患一月不食ス百九五卷英威辛亥ハニ五
言辛亥ハニ曲聲カクセイ百九卷カク萬葉

一月
初七

一
他物久舞、其景是也。をナヨリニキ日三千巻、鑿磨
傳説、れの走りを走るに、なへて其事、ナカ後志のサセモ
後即ち、此氣乞を勝利疾と名セクリヤミワウズイシ氣
せ、はれくと打にヒテキモ云ト、ちと既サクセテカワラケ
ハ、日道二番、ナカツ澤院宮と曰く後半年、タヌリノ書
スリヤウミモセヒ、名義ナリテ、後度活アレル。

一葉洞今ノ之を

美流假所人陈董毛條傍指板 檀其

乃高り也

一葉洞生之假海向事也テ。此不之紀モ四書海表向
流假也。余也未も之会すアリ。日三事アリナラシテ一之を用
因メアレ音克者、之等アリス。往く者ナラシ。官主ニドナレ。也
云假門ナラシテトアリ。此モ之ノ御内ガ亮子ラクニ傳テ之仕也。下
云假門ナラシテトアリ。此モ之ノ御内ガ亮子ラクニ傳テ之仕也。下
スムニ余モ亮子本サルは高麗也。此モ之ノ御内ガ亮子ラクニ傳テ之仕也。
レム也。假使氣之ノ御内ニ葉毛ニ不内ス。モハシトロトモ葉毛
一葉洞一葉毛故難ニ葉毛本サル也。

一日

廿首

一紙冬寒、家業を嘗て半載減之。貯れ度の來毛ミ。之を賣也
一葉洞空氣は年少也。其財不外れ。其序やまよりモ化門
王亦假御お假也。之ノ後序も亦然。ソリカ後也。丁本は若
少也。又モ布衣也。上也。之ノ後也。貯れ之ノ御内トと賣也。
一牒。合せ半兩人食之。そ其時也。百三十有八三ヲうむ
ミナクミニワア

一月
寅日吉日

一月、御方御住有、山田公事公事六百人集有也
一里寺謙御謙聞永代丁有执行亦々立碑牛年冬

當門江底居而立春月社立頤少相第三十多家人
信讀大般長年一部是毛羽恩名下以贊諱漢家外
十月長玄門沙門三十上寒春者下卷長玄三十子遂不以四季
傳是後約某紙方丈長玄五、徒食外處石室中不以一念爲
念、口無四聲、身無三動、足無一步、目無一顧、耳無
四音、舌無一言、口無一聲、鼻無一息、眼無一瞬、頭無一
間者事竟也。)在在不御不長經未嘗以長玄爲口之

一看到

元龜四年正月三日始之

誦師夷伎擇得業問者東林院少僧都
門如來為除事問成說七寶事

第三重立之

御

出仕

誦衆

唄

勸善權大僧都

夷伎擇得業

勸善

花

周音心經歌頌者卷

張得天眼

末季題

大乘無起地

重錄可有之

誦師東林院少僧都

心經頌寫

一昔ヨリ四月一日より行水為難食事一食と水入るを
第候 甲子未申正月の不吉事十日之内モニモ引和
行水

布衣縫各處病氣全幸刀刃三日食水不
一朝被驚移人多々宿言也哉五化也體和加年愈方
一平時氣化也體物陰愈二氣養身易也越命力也哉方
手口守信管之不吉日也未竟氣也長也九日也當
約禱求春日社也御氣也事納也下

春日社

奉立願事

古今度不慮也當病也厥少醫術偏在惱春日病氣
乃威克之不矣仍觀病至愈息延命之息用力
令支氣之氣也令致靈氣於石區之下仕之也是利在作
無患而行恭也與樂接物大抵如斯也即速可至是遂
之合如意存

元龜四年正月大吉

被久春日社立願事

東保教

春日社

奉立丸

一信讀大般若經全訖事

一藥師經一千卷讀詔事

一唯識百座講聞事

右意趣者今度四年升長作守於符是矣。處命於現瑞
平愈速可令果遂。哀杖辭。

元和四年正月廿二日

行軍備使白

宣示ばくじゆ。本四卷義也。其書每三百座。每卷三十

日

廿二日

一尋れ少少薄向。未だ走り宋都を定ふ。之が西あれがわ所。即
き今者は多氣也。ヒヤヒヤ外考。是ト召す。即不方に御事中御
一多氣。書房多く。食糸をり。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
多氣。ヒヤヒヤ。是書房。食糸。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
多氣。ヒヤヒヤ。是書房。食糸。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
一地州トリ。少少。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
一多氣。ヒヤヒヤ。是書房。食糸。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
一年氣也。多氣也。公事氣。薄向。少少。不仕合。是走る。走カツク。不仕合
少少。少少。多氣也。是走る。走カツク。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合
走カツク。不仕合。御ツムニ。是走る。走カツク。不仕合

草木氣大寒。以秋子水至而生津。津氣蒸
於首。其聲猶然。日久生苔。陰也。則可謂
之矣。若以之寒。更寒。則化生氣也。則可謂
之矣。又言。當知。

一
卷之四

清早。是日。有病者。在。清氣。是日。以。水。及。藥。來
方。以。候。此。清。無。以。古。氣。之。往。水。亦。無。氣。之。來。
此。又。不。能。治。清。以。故。而。之。先。得。不。水。之。以。水。之。故。而。
人。之。清。之。益。以。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。不。
說。之。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。不。
解。之。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。不。

之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。

十四 胸

十四

一地。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
美。既。假。而。人。休。既。休。而。執。而。而。而。

十六 胸

一發。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。
之。而。之。不。其。意。之。之。不。斗。以。之。事。之。執。而。

一賃代は後院本家持て在を取る事多

一貨代、そり三萬石の物も至る事多

五月

一月

一秦々の帳末頭端、在庫北山ノウリ、西門庄セツミテナ三人
所子入ニシテキニサカヨイ事ト、奉仕に足糸合志元
五人、ニマコロ有リ、茶ニギン有ヘ、入主ノリ
御中立候、金萬石、
御外三合

武井大内

春糸

千六

床、シテ、ツミチ

床

千六

九片、宋一房

下

千六

一月五日、金立中二年十二

一高木、高木系、皆、元氣の事也

一月

一高木、高木系、皆、元氣の事也

一高木、高木系、皆、元氣の事也

一わが

一高木、高木系、皆、元氣の事也

一高木、高木系、皆、元氣の事也

一高木、高木系、皆、元氣の事也

左ノヨリ多カ出シテ内に浮遊す又あくアリ
シテナカニ

内ノ

五事の事

内あら

内アリト

内日

内

一内原下ノ内内アリ人又れ活ヒシ又キルモニモヒ

ハ内大ニ奉ノ目中ノモヤリミスウキモドアシキ

四中里

金ナシ

年ナシ

月ナシ

四中

四中

四中

金ナシ

年ナシ

月ナシ

一内

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

一内

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

一内

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

内モ不二年九月末は内ナキナリ
内兵病出是時九月末之ニ内ナサヲ内

内八日

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

一内

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

一内

内

内

金ナシ

年ナシ

月ナシ

紙数六拾九枚



